



公益社団法人 日本精神神経科診療所協会
平成28年度定時総会 第22回(通算43回)学術研究会
ランチョンセミナー2

アルツハイマー型 認知症の診断、 治療から予防まで

—東洋医学から見た認知症薬物療法を再考して—

日時

2016年
6月11日(土) 12:00~13:00

会場

大阪市中央公会堂 第3会場 3F小集会室
大阪市北区中之島1丁目1番27号 TEL:06-6208-2002

座長

李 利彦 先生
医療法人宏彩会李クリニック 院長

演者

宮澤 仁朗 先生
特定医療法人さっぽろ悠心の郷ときわ病院 院長

アルツハイマー型認知症の診断、 治療から予防まで —東洋医学から見た認知症薬物療法を再考して—

宮澤 仁朗 先生

特定医療法人さっぽろ悠心の郷ときわ病院 院長

新たなアルツハイマー型認知症(AD)のスクリーニング検査として、Me-CDT(Memory entailed-CDT,記憶付加型時計描画テスト)を作成し、322名を対象としてMe-CDTとMMSEを実施し比較検討した。コンピュータ制御することで検者による差異が生じないMe-CDTはMMSEより再現性が高く除外診断能にも優れ、より鋭敏なスクリーニング検査と位置づけられる結果を得ることが出来た。

ADのBPSD(行動・心理症状)に対して西洋薬が治療薬として用いられることがあるが、鎮静等の副作用の発現が危惧され、FDAも死亡率上昇の警鐘を鳴らしている。日本人が創薬したといわれ、バランスが良く美しい漢方薬と評価される抑肝散加陳皮半夏は、虚弱な体質で神経がたかぶるものの神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳症に用いられる製剤で、認知症患者の呈する神経症状に有効との知見が集積している。演者の自験例を中心に、本剤の有用性についてご紹介したい。

宮澤 仁朗 先生

ご略歴

昭和62年 3月 札幌医科大学医学部卒業
昭和62年 4月 札幌医科大学神経精神医学教室入局
昭和63年 5月 総合病院伊達赤十字病院勤務
平成 2年 4月 札幌医科大学神経精神医学教室
平成 4年 4月 ときわ病院勤務
平成12年 1月 ときわ病院 副院長
平成13年 5月 ときわ病院 院長
平成19年 4月 札幌医科大学医学部・神経精神医学講座・
臨床准教授

所属学会、及び主要研究領域

日本精神神経学会(学会認定専門医および指導医)、日本老年精神医学会
アルツハイマー病における画像解析(MRI, SPECT)、神経心理(Vision analyzerによる視覚情報処理)、生体磁気計測装置(MEG)による脳磁場測定の研究に従事していた。
現在はアルツハイマー型認知症のハイスクリーニング検査 Me-CDT の研究に携わっている。